

道軟連合報

2022年度 後期号
2022.12.22
第82号
発行所
北海道軟式野球連盟
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号
発行者 奥山英明
編集者 総務部
印刷所 岩橋印刷株式会社

二〇二二年度支部理事長連絡会議の開催

二〇二四年 一般社団法人化への移行固まる

依然と続くコロナ禍の中で心配もありましたが、各支部理事長さんの協力と感染対策を講じての対面による「支部理事長連絡会議」が令和四年十一月十三日（日）に道立総合体

育センター（札幌市）で各支部の理事長参集のもと開催されました。一年ぶりの対面での会議で、盛りだくさんな報告・協議事項に対し活発な議論がなされました。



○ 報告事項

- ・二〇二二年度一般会計予算の決算見込みについて
- ・（公財）全日本軟式野球連盟二〇二二年度功労者表彰候補者の推薦について
- ・北海道軟式野球連盟表彰規程に関わる二〇二二年度功績賞等の推薦について
- ・第四十四回東日本軟式野球（一・二部）全国大会の総括について
- ・（公財）全日本軟式野球連盟に関する情勢報告について 他

○ 協議事項

- ・二〇二二年度北海道大会に関わる総括について
- ・諸規程の一部見直しについて
- ・全軟連「競技者登録システム」の取り扱いについて

○ その他

- ・「一般社団法人」への移行・概要について
- ・組織財政検討委員会（二〇二三年度以降の次期支部負担金他）について
- ・少年部（学童・少年）大会の肘肩障害予防検診のあり方について
- ・二〇二三年度北海道大会開催日程について 他

新しい支部役員等の紹介

遠軽支部・審判部長



山中政則 氏

昭和49年
12月25日生

遠軽支部・審判技術員



福田一人 氏

昭和50年
6月28日生

平成10年 道軟連二級審判員
平成20年 道軟連一級審判員
令和4年11月 遠軽支部技術員

◆お知らせ◆

☆「二〇二三年度定時評議員会」の開催予定

日時：令和五年三月十一日（土）午後二時（予定）

場所：「ホテル ノースシティ」二階「金柔」

札幌市中央区南九条西一丁目

地下鉄 南北線「中島公園」駅下車（一番出口徒歩五分）

2022 北海道大会熱戦譜



天皇賜杯第七十七回全日本軟式野球南・北海道大会 優勝「JAようてい」(後志支部) ENEOSトーナメント

天皇賜杯全日本軟式野球南・北海道大会は、七月十六日から一八日までの三日間、「ブナ北限のまち」黒松内町営野球場をメイン会場に、新型コロナウイルスの影響で北海道大会を棄権するチームも少なくなく、今大会も心配されましたが、支部予選を勝ち抜いた全十二チームと開催地推薦の二チームの合計十四チームにより開催されました。

大会一日目、蘭越会場では第二試

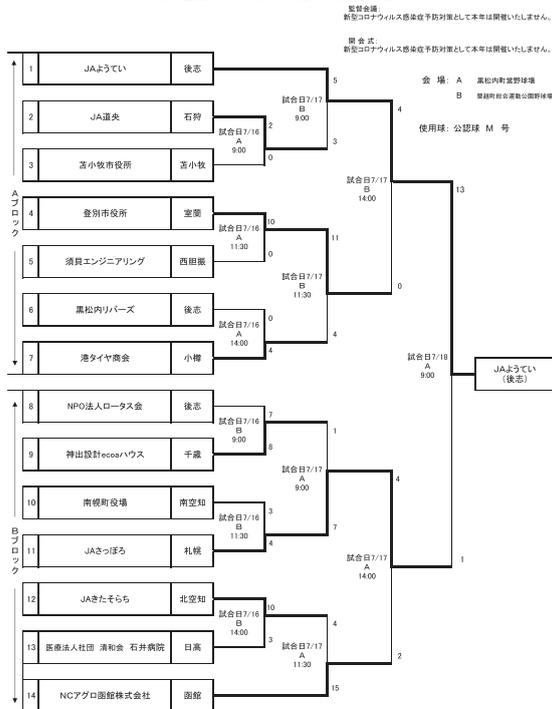
合が延長戦となり、第三試合の開始が十五時三十分と、予定開始時刻が大きく遅れました。試合途中からナイター照明にも明かりが灯り、大会が終了する頃には、十八時を回っていました。

大会二日目、午後から雨予報のため天気を心配しながら試合が始まりました。蘭越会場では第二試合途中から雨が強くなり、グラウンドに水が浮く最悪のコンディション。試合

は一時中断され、蘭越会場での続行は不可能と判断し、黒松内会場に移動し試合を再開しました。大会役員で協議を行い、両会場で予定されていた第三試合、準決勝二試合は翌日の第一試合に変更し、二会場同時に開始することとし、勝ち上がった二チームにより黒松内会場で決勝戦を行うことになりました。

大会三日目、ようやく好天にも恵まれ、多くの方が観戦に訪れていました。決勝戦に勝ち上がったのは、昨年の覇者、地元代表の「JAようてい」(後志支部)、対するチームは「JAさっぽろ」(札幌支部)と

天皇賜杯第77回全日本軟式野球大会南・北海道大会



昨年に引き続きJA対決となりま
した。

「JAようてい」は、一回表に幸
先よく二点を先取、その後も得点を
重ね六回までに八得点とリードを
広げました。一方、一回戦を延長
十一回サヨナラ勝ちし、勢いに乗
るJAさつぽろは、中々チャンス
をつかめず六回までに得点を取るこ
とができない苦しい展開が続きまし
た。

七回表、「JAようてい」の勢い
は止まらず、前日の試合でホームラ
ンを打っている間所選手が今大会二
本目のホームランを放つなど、一挙
五得点を奪いました。その裏、「JA
さつぽろ」は何とか一点を取るもの
の、試合終了。十三対一の圧勝で
「JAようてい」が二年連続三回目
の全国大会の切符を手に入れました。

地元チームの優勝、それも二連覇
という輝かしい成績は、チームのみ
ならず後志支部の関係者も最高の一
日を共に過ごすことができました。

(後志支部事務局 福家朋裕)



天皇賜杯第七十七回全日本軟式野球北・北海道大会 優勝 「六花亭」(十勝支部)

七月十六日から十八日までの三日
間、名寄市営球場他三球場にて大会
が開催されました。各支部の予選を
勝ち抜いた十四チームが集まり、さ
すがは天皇賜杯という、レベルの高
い熱戦が繰り広げられました。

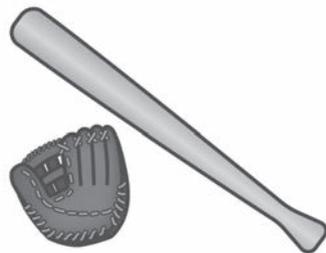
近年は、より打球が飛ぶようにな
っており、多くのホームランが飛
び出すなど、観客も大喜びの大会と
なりました。決勝戦では「六花亭」(十
勝支部)と「JAあさひかわ」(旭

川支部)との対戦になり、試合は一
進一退の攻防の末、六対一で「六花
亭」が優勝しました。名寄支部から
は、「名寄市役所」と「士別市役所」
が出場し奮闘しましたが、両チーム
とも優勝した「六花亭」の前に涙を
のみました。

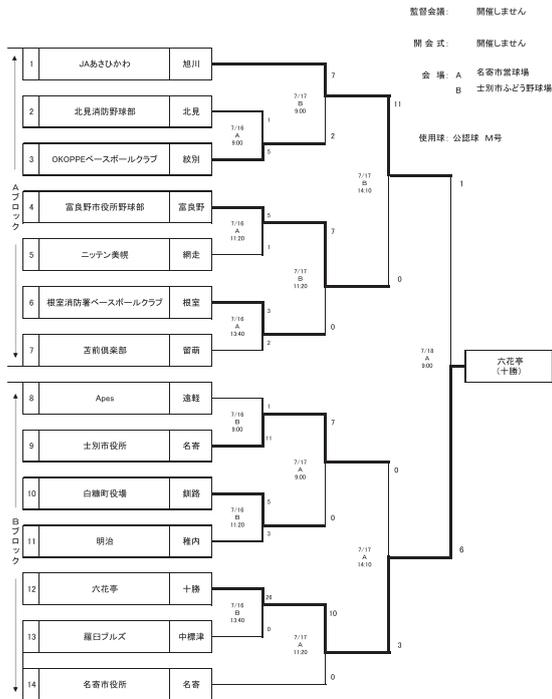
大会二日目は午後から雨予報が
あったため、午前九時、四会場で一
斉に試合を開始という変則となりま
したが、選手・役員の方には臨機応

変な対応をいただき無事に大会を終
えることができました。大会に関
わっていただいた皆様に感謝を申し
上げます。

(名寄支部リポーター 瀬野友寛)



天皇賜杯 第77回全日本軟式野球大会 北・北海道大会



高松宮賜杯第六十六回全日本軟式野球大会(一・二部) 南北海道大会

優勝一部 小鍛冶組 (札幌支部)

二部 空知単板工業 (北空知支部)

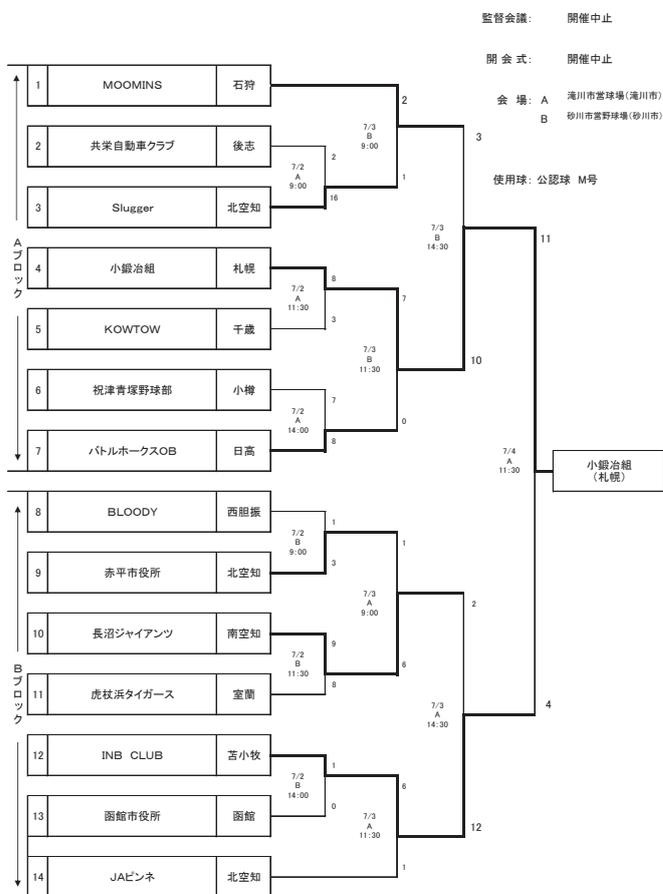


1部優勝 小鍛冶組

高松宮賜杯第六十六回全日本軟式野球大会(一・二部)南北海道大会は、七月二日から四日の三日間、一部大会は、滝川市、砂川市で十四チームが参加し、二部大会は、新十津川町、芦別市で、欠場した札幌支部を除き、十三チームが参加して開催されました。

新型コロナウイルス感染症対策で、監督会議及び開会式は行わず、大会が始まりました。

高松宮賜杯第66回 全日本軟式野球大会(1部)南北海道大会



北空知支部開催の全道大会では、雨が付き物ということで心配しましたが、支部役員の願いが天に届いたのか、道連を始めとする大会関係者のご協力により、大きなスケジュール変更もなく、無事に終了することができました。

大会結果の概要は、一部大会では

十三試合中、一点差ゲームが三試合、サヨナラゲームが一試合、延長戦が一試合、コールドゲームが五試合と、どちらかと言えば実力差が分かれた内容でした。一方、二部大会は十二試合中、一点差ゲームが二試合、サヨナラゲームが二試合、延長戦が二試合、コールドゲームが三試合と実力差が近い内容でした。

一部大会の決勝戦は、「小鍛冶組」(札幌支部)と「INBC CLUB」(苫小牧支部)の戦いでした。「小鍛冶組」は、準決勝までの三試合のうち二試合をコールドゲームで勝ち上がった強力打線を誇るチーム、一方「INBC CLUB」も投打のバランスが取れたチームでしたが、「小鍛冶組」の打線が爆発し、本塁打一本を含む十三安打十一得点、「INBC CLUB」の善戦及ばず、十一対四で「小鍛冶組」が優勝しました。

二部大会の決勝戦は、「デンソー北海道」(千歳支部)と「空知単板工業」(北空知支部)の戦いでした。「デンソー北海道」は、準決勝まで延長戦、コールドゲーム、サヨナラゲームで勝ち上がった投打のバランスが取れた地力のあるチーム、一方、「空知単板工業」は、投打のバランスで勝ち上がった地元支部の期待を背負ったチームです。試合内容は、「デンソー北海道」の序盤二点リードを「空知単板工業」が六回で追いつき、七回で四点を入れ逆転し、八回「デンソー北海道」が一点を返すも及ばず、三対六で「空知単板工業」が優勝しました。

一部・二部ともに、参加チームの選手の勝利を懸けた真剣勝負は、まさに手に汗握る戦いの連続でした。

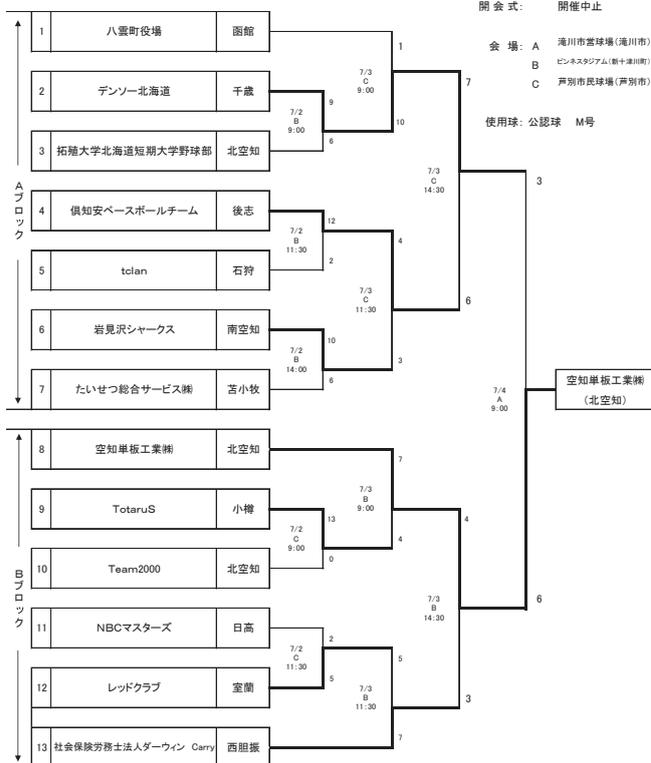
高松宮賜杯第66回 全日本軟式野球大会(2部)北海道大会

監督会議: 開催中止

開会式: 開催中止

会場: A 滝川市営球場(滝川市)
B ビンネスタジアム(新十津川町)
C 芦別市民球場(芦別市)

使用球: 公認球 M号



2部優勝 空知単板工業

最後になりましたが、派遣の道連役員、審判員そして大会運営に携わった多くの関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。
(北空知支部審判部長 谷口秀樹)



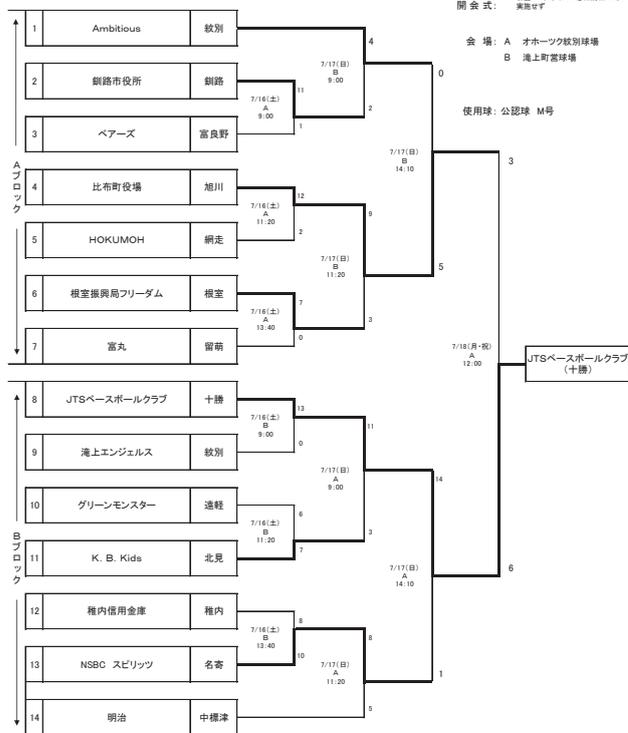
高松宮賜杯第66回全日本軟式野球(1部)北・北海道大会

監督会議: 新型コロナウイルス感染防止のため実施せず

開会式: 新型コロナウイルス感染防止のため実施せず

会場: A オホーツク紋別球場
B 滝上町営球場

使用球: 公認球 M号

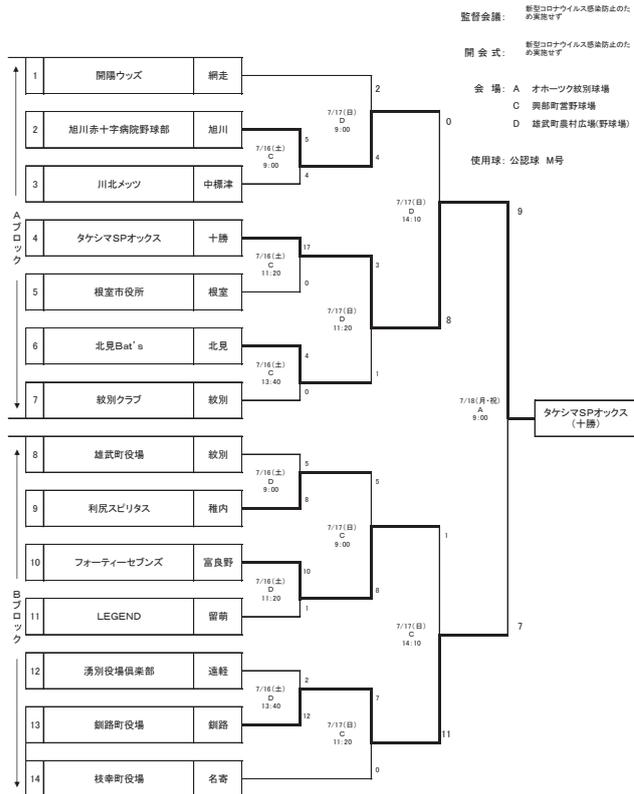


紋別支部では五年ぶりの北海道大会開催となる、高松宮賜杯第六十六回全日本軟式野球大会(一・二部)北・北海道大会が令和四年七月十六日から十八日までの三日間、紋別市のオホーツク紋別球場をメイン会場とし、滝上町営球場、興部町営野球場、雄武町農村広場(野球場)で開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大による参加辞退チームも無く、全国大会出場を目指し、北・北海道各支部の一部・二部の代表二十八チームが熱戦を繰り広げました。
大会二日目は雨天予報に備えて試合開始時間を早め、全会場の試合を七回戦として実施、第三試合の後半は降雨の中のゲームとなりました

高松宮賜杯第六十六回全日本軟式野球大会(一・二部)北・北海道大会
優勝 一部 JTSベースボールクラブ(十勝支部)
二部 タケシマSPオックス(十勝支部)

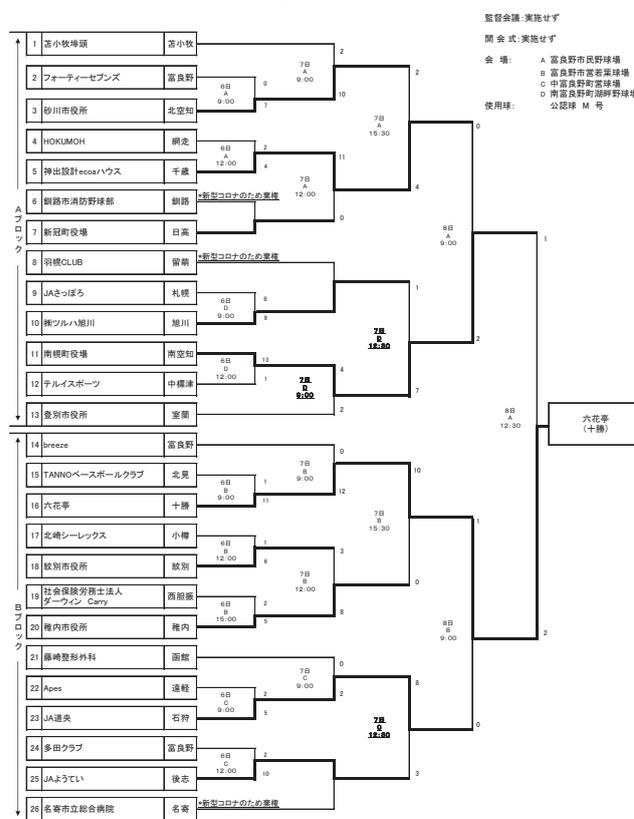
高松宮賜杯第66回全日本軟式野球(2部)北・北海道大会



が、無事に終えることができました。最終日、二部決勝戦は、「タケシマSPオックス」(十勝支部)と「釧路町役場」(釧路支部)の対戦、四回に逆転に成功した「タケシマSPオックス」が「釧路町役場」の追い上げを振り切り九対七で見事優勝を飾り、続く一部決勝戦は「JTS ベースボールクラブ」(十勝支部)と「比布町役場」(旭川支部)が対戦、四回までに六点を奪った「JTS ベースボールクラブ」がそのまま逃げ切り、六対三で優勝を飾

りました。一・二部ともに十勝支部が優勝し、あらためて十勝勢の強さを実感する大会となりました。最後にありますが、大会期間中、運営にご支援いただきました道連役員を始め、網走、北見、遠軽支部からの交流派遣審判員、地元審判員や会場運営担当者など多くの方からのご協力をいただきましたことに心より感謝とお礼を申し上げます。(紋別支部リポーター 小林昌史)

2022年度 第77回国民体育大会軟式野球競技北海道ブロック予選会
兼北海道体育大会



第七十七回国民体育大会軟式野球競技北海道大会 優勝 六花亭 (十勝支部代表)

去る八月六日(土)から八月八日(月)までの三日間、富良野市、中富良野町、南富良野町の四球場を会場に全二十三チームによる本大会を開催いたしました。当初、全二十六チームが出場する予定でしたが、未だ猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響で三チームが棄権となり、コロナ禍における大会運営の難

大会期間中であっては、いずれも支部予選を勝ち抜いた強豪チームとすることもあって一回戦から熱戦が続き、球場運営をお手伝いいただいた中学生の子供たちも目を輝かせて試合に見入っていました。その中で決勝には、準決勝にて前

しさを改めて痛感する大会となりました。

回大会優勝の「神出設計ecoahウス」(千歳支部)を破って勢いに乗る「南幌町役場」(南空知支部)と、第七十四回大会優勝チームの「六花亭」(十勝支部)が駒を進めました。試合は初回に「六花亭」が二点を奪い、四回に「南幌町役場」が一点を返したものの「六花亭」が要所を守り切ってリードを譲らずゲームセット。一対二で十勝支部代表「六花亭」が見事優勝を掴み取りました。

部代表二十三チームの皆様大変お疲れさまでした。結びに、本大会開催にあたりご尽力いただいた道連役員並びに大会審判員の皆様、そしてお忙しいところお手伝いいただきました大会運営スタッフの皆様、役員一同、心より感謝申し上げますと共に、今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(富良野支部 野澤進吾)

日本スポーツマスターズ2022軟式野球・北海道大会 優勝 KAZENO α SPORTS (西胆振支部)

二〇二二年日本スポーツマスターズ軟式野球北海道大会が七月二十二日(金)から七月二十五日(月)まで小樽市桜ヶ丘球場・仁木町ふれあい遊ピア公園野球場に、全道十二支部を勝ち抜いた代表十四チームが集い、全国大会への切符を目指して、三日間に渡って熱戦を展開しました。小樽市桜ヶ丘球場初日は悪天候でしたが、大会スタッフ、多くの人力で一時間遅れで開幕できました。本当に感謝申し上げます。決勝は「神出ライオンズ

M」(苫小牧支部)「KAZENO α SPORTS」(西胆振支部)の対戦となりました。試合は二対一で接戦を手にした、「KAZENO α SPORTS」が優勝しました。大会期間中、試合運営に関わった役員、審判団そして加盟チームからの補助員など多くの方々に協力いただきました。心より感謝とお礼を申し上げます。本大会のレポートとします。

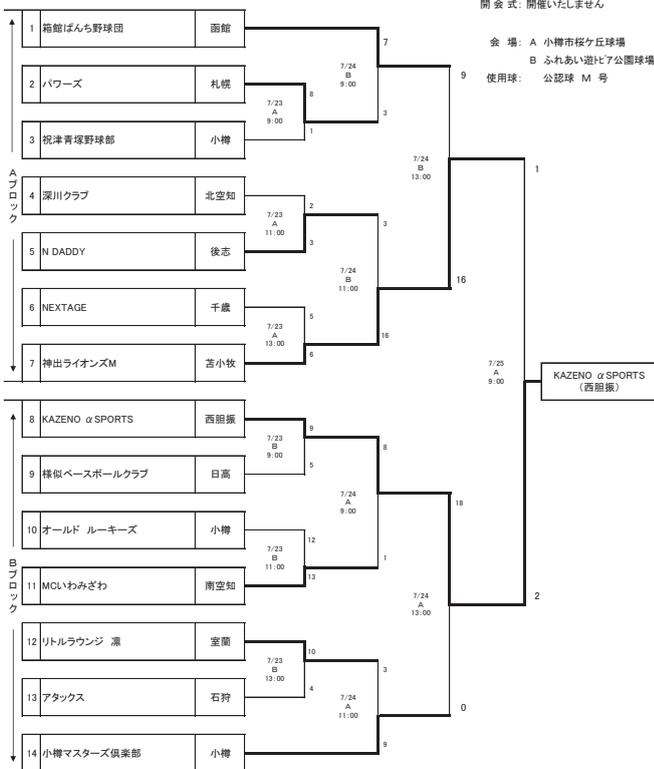
(小樽支部 牛腸和美)

日本スポーツマスターズ2022軟式野球競技 北海道大会

監督会議: 開催いたしません

開会式: 開催いたしません

会場: A 小樽市桜ヶ丘球場
B ふれあい遊ピア公園球場
使用球: 公認球 M号



日本スポーツマスターズ2022軟式野球・北海道大会 「満塁ホームランで、TAKEKUMABASE (十勝支部) が初優勝！」

本大会は、七月二十三〜二十五日に留萌市を会場に開催された。

留萌支部としては、今年二度目の全道大会であり、コロナ対策に注意し、準備万端で各支部の精鋭を迎えたところであった。

しかし、天候だけは味方についてくれず、初日は、竹本大会委員長、二瓶審判長協議のもと、開始時間を一時

間遅らせ、十時開始。さらには、日没を考慮し五回戦としたところです。

一、二試合目は、順調すぎるほど試合が進み、試合短縮の判断を早まったかと思ったが、三試合目は、延長、そしてタイブレークと帳尻があってしまった。

決勝は、「サージ網走」(網走支部)、「K. B. KIDS」(北見支部)な

ど優勝経験チームを撃破し、初の決勝進出を果たした「ドリームスターズ」(名寄支部)と、実力拮抗の「旭川クラブ」との接戦をものにした「TAKEKUMABASE」(十勝支部)の戦いとなった。

序盤は、「ドリームスターズ」驚見、「TAKEKUMABASE」田中、両投手の変化球をベースにした投球術で淡々と進む。三回表「TAKEKUMABASE」の攻撃もツアアウト。そこから、一番佐々木、二番松永、三番田中の三連打で満塁。ここで四番高橋が満塁ホームランを放ち、試合の形勢をぐっと引き寄せる。その裏、「ドリームスターズ」も八番石倉の出塁を機に、一・二塁のチャンスを作る。二番大橋のレフト前ヒットでチャンスを広げたが、一点止まりとなった。

その後も「TAKEKUMABASE」は、佐々木、松永、田中、高橋の上位陣がマルチヒットを放ち、六対一で全国の切符を勝ち取った。満塁ホームランを放った高橋選手は、「全国大会でも、優勝を目指します。」と力強く語った。なお、「ドリームスターズ」は、シヨートで華麗な守備を見せ、さら

には準決勝スリーランホームランで決勝進出の立役者となった、道連評議員瀬野選手が決勝序盤で故障のため退いたのが悔やまれる。

なお、閉会式には、留萌市高橋一浩教育長が公務ご多用の中、ご臨席頂き、ご挨拶を頂戴した。

開催にあたり、道連役員、派遣審判員、道北五支部交流審判員、さらには地元留萌連盟のスタッフ、還暦チームヘリングスそして、閉会式まで見事なウグイスぶりを披露してもらった佐藤恵さんに感謝です。

(大会こぼれ話)

① 大会二日目には、「J.dream」(留萌支部)が「ドリームスターズ」(名寄支部)と対戦。漆館(うるしだて)投手が、地元の声援を受け好投するも、一失点で惜敗。

② 「K. B. KIDS」(北見支部)は、見る者を唸らせるシートノックを披露。惜しくも敗者となった後でも、ボールボーイをしてくれた留萌中学校野球部「高橋典夫監督・田中 昌晟(ゆうせい) 主将」に拍手で感謝を表明。技術だけではないチームの実力を垣間見たと思います。

③ 審判員が暑さによる体調不良か

ら、二試合でリタイア。二試合とも控え審判を務めていた留萌支部若林審判員がその後をしっかりと努める。審判部の控え審判の重要性を、図らずも裏付ける出来事となりました。

(留萌支部理事長 辨開淳美)

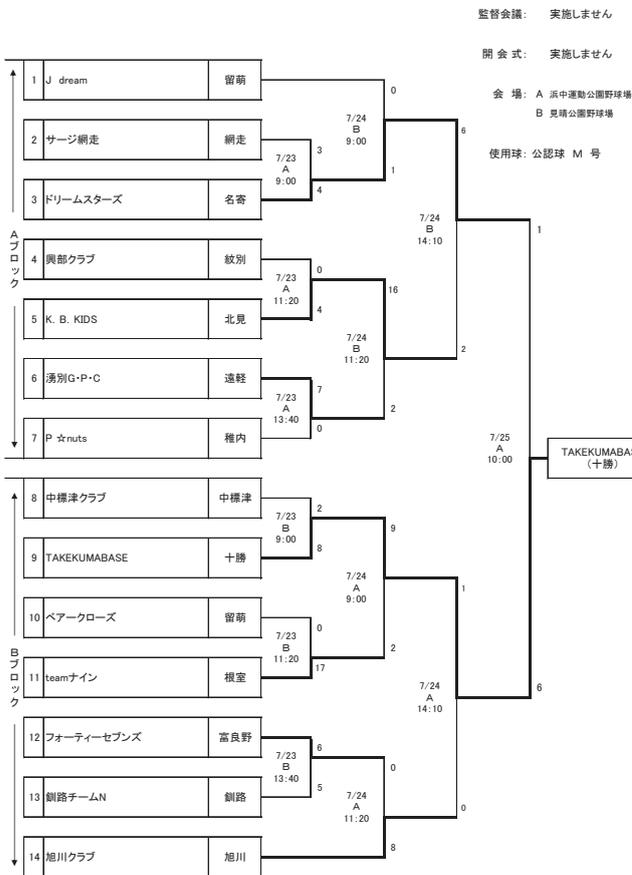


満塁H・十勝高橋選手



初優勝TAKEKUMABASE

日本スポーツマスターズ2022軟式野球競技 北海道大会



第四十五回東日本軟式野球(一部・二部) 南北海道大会 優勝 一部 ダンディーズ(日高支部) 二部 夕張市役所野球部(南空知支部)

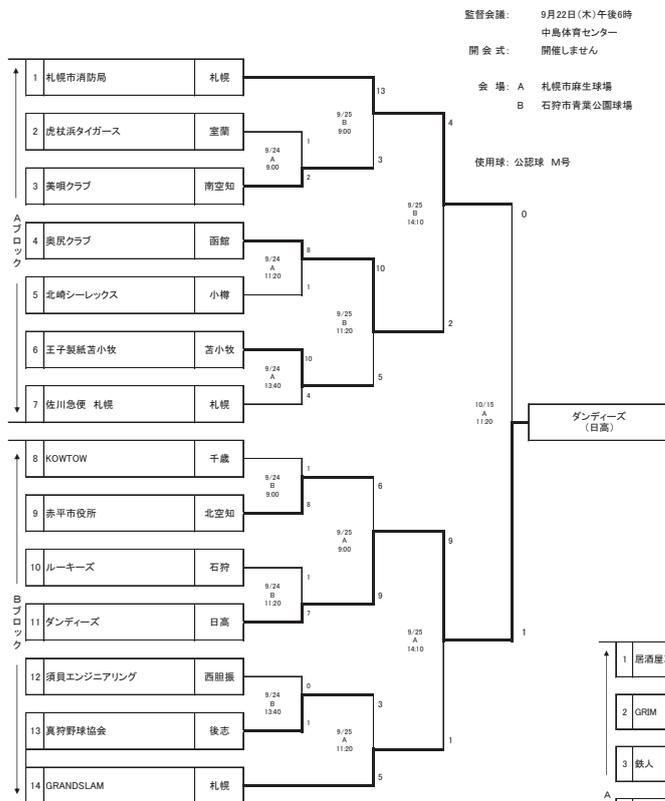


1部優勝 ダンディーズ

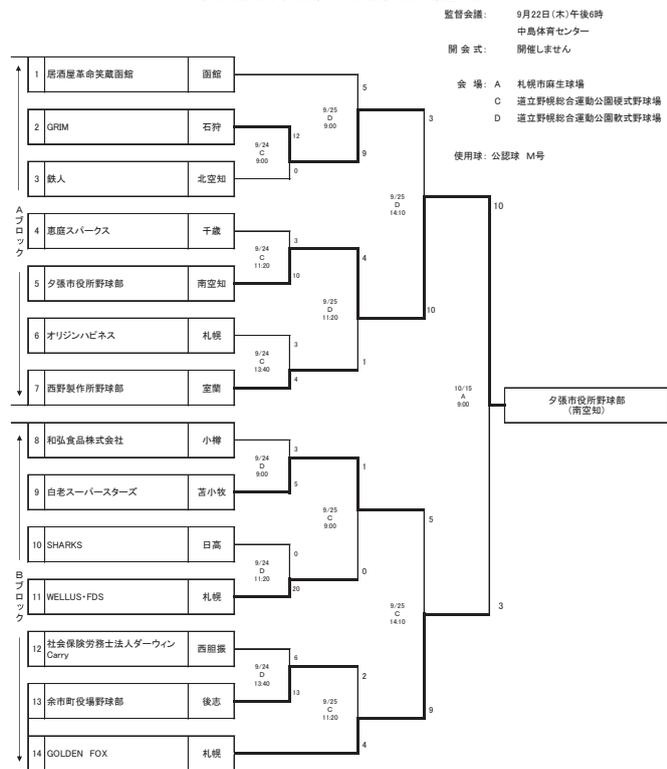
第四十五回東日本軟式野球大会一部・二部 南・北海道大会は、支部予選を勝ち抜いた、それぞれ十四チームが参加し、九月二十三日から二十五日までの三日間、札幌市麻生野球場をメイン会場に本大会を開催する予定でしたが、大会初日は強い雨が降り続き、役員・審判員等の懸命なグラウンド整備にも関わらず、グラウンドコンディションを改善することができず中止となりました。

大会二日目からは天候も回復し、二日間に渡りそれぞれの試合を消化。決勝は一部・二部共に会場の都合により三週間遅れの十月十五日に札幌市麻生球場で行われました。

第45回東日本軟式野球大会 1部 南北海道大会



第45回東日本軟式野球大会 2部 南北海道大会



2部優勝 夕張市役所野球部

今シーズンも新型コロナウイルス感染症防止に伴い、道庁連から示されたガイドラインを遵守し、開会式は開催せず、消毒液の配置や選手が密にならないような対策を講じ、万全の態勢で大会を迎えました。

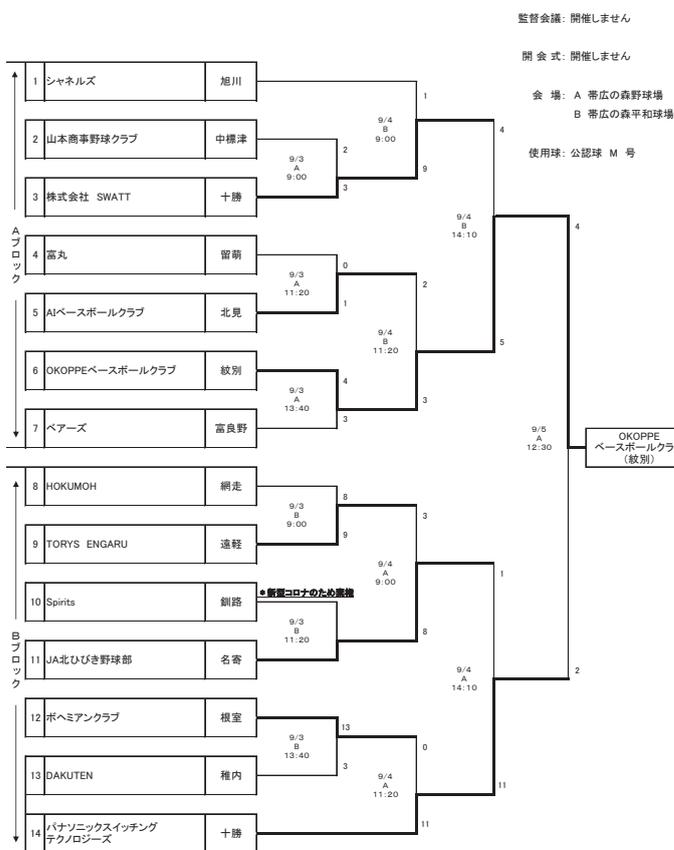
一部の決勝戦は「札幌市消防局」（札幌支部）と「ダンディーズ」（日高支部）が対戦。「ダンディーズ」が一点を守り切り優勝。

二部の決勝戦は「夕張市役所野球部」（南空知支部）と「GOLDEN FOX」（札幌支部）が対戦。「夕張市役所野球部」が大差での優勝を果たしました。

新型コロナウイルスが未だに収束の兆しが見えない中、試合運営に関わった役員・審判団そして加盟チームからの補助員など多くの方々協力いただいたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

（札幌支部 藤山真一）

第45回 東日本軟式野球大会(1部)北・北海道大会



暦の上では秋ですが、ここ十勝では熱い戦いが始まりました。四十五回目となる本大会は新型コロナウイルス感染症防止の観点から監督会議、開会式は行わず、九月三日から五日の決勝戦までの三日間、帯広の森野球場・帯広の森平和球場・伏古別公園野球場・芽室町営球場で二十八チームが

第四十五回東日本軟式野球(一部・二部)北・北海道大会
優勝 一部 OKOPPEベースボールクラブ(紋別支部)
二部 年中野球(十勝支部)

熱戦を繰り広げました。しかし、一部代表チームの「Spirits」(釧路支部)がコロナ陽性者の発症により出場を辞退。代表支部事務局長からの「申し訳ない。」という言葉に無念さと悔しさを感じた今大会でした。

さて、試合ですが一部決勝戦の見



1部優勝 OKOPPEベースボールクラブ

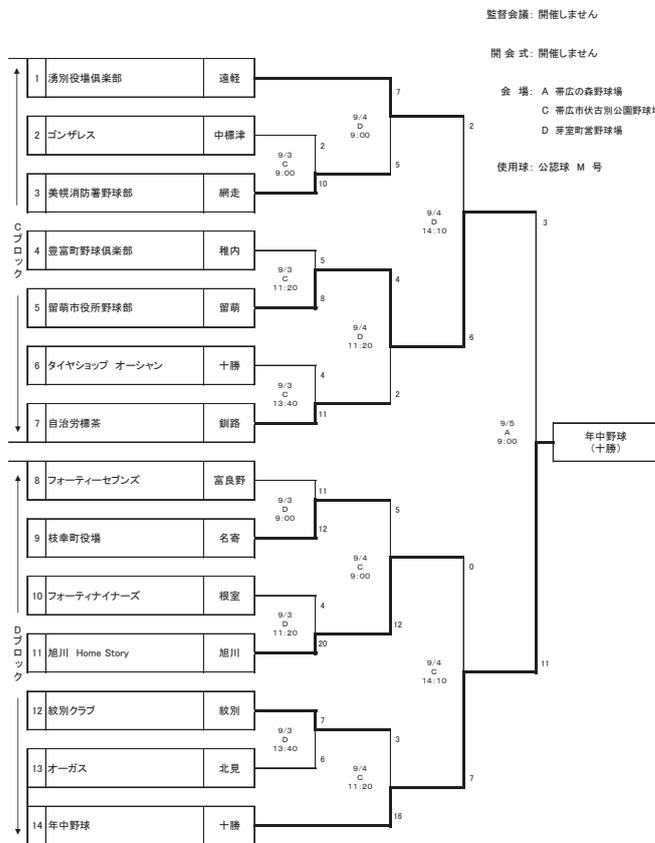
どころは、常に接戦を勝ち上がったきた紋別代表に対し、すべてコールドゲームで勝ち上がった十勝代表との試合のかけ引きでした。今大会一人で投げ抜いてきた十勝支部代表濱中投手ですが、疲労が見られた一瞬の隙を突いて得点に結びつけた「OKOPPEベースボールクラブ」(紋別支部)が十勝代表の強豪打線を封じ込め栄冠を勝ち取りました。二部決勝戦はこれもすべてコールド勝ちで勝ち上がった十勝代表と総合力の高い留萌代表との戦いになりました。初戦から勢いに乗る「年中野球」(十勝支部)は地元であ



2部優勝 年中野球

最後の利を生かし決勝戦でも衰えを見せることなく、コールドゲームにて二部決勝戦を制しました。
今年もコロナウイルス感染対策を実施しながらの大会運営となりましたが、今大会は我々だけでなく選手皆様の協力によって閉幕できたものと感じています。残念ではありませんが、出場辞退された釧路支部代表の選手皆さんにはせめて大会プログラムを記念として送りましたのでお受け取り下さい。
最後になりますが大会運営の相談に迅速かつ丁寧な判断・対応をいただきました大会委員長、ご指導ご協

第45回 東日本軟式野球大会(2部)北・北海道大会



力を賜りました道連派遣役員・審判員・交流審判員他関係皆様に深く感謝申し上げます。大会の終了をご報告させていただきます。

(十勝支部 加藤和博)



北海道知事杯第二十二回北海道軟式野球選抜選手権大会 優勝 JA ようてい (後志支部)

JA ようてい 二年ぶり優勝！

北海道知事杯第二十二回北海道軟式野球選抜選手権大会は、本年八月二十七日から二十九日まで、旭川支部が主管し道内の六ブロックから十四チームが参加し、旭川ドリームスタジアム、東光スポーツ公園第二球場で開催されました。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大で、「旭山倶楽部」(十勝支部)、「名寄市役所」(名寄支部)の二チームが大会直前に出場を辞退されましたが、二十二回目の大会で初めて「六花亭」(十勝支部)が参加され十二チームでの大会と成りました。

大会は天候に恵まれ順調に経過し、決勝は「六花亭」(十勝支部)と「JA ようてい」(後志支部)の戦いと成り、二回の表と裏にそれぞれ一点を取り合い、四回、五回、八回には「JA ようてい」が追加点を奪い、守っては「JA ようてい」中畑仁治投手が一二三四球の力投で強打の「六花亭」を二点に抑え、六対二で見事二年振り二回目の優勝をさ



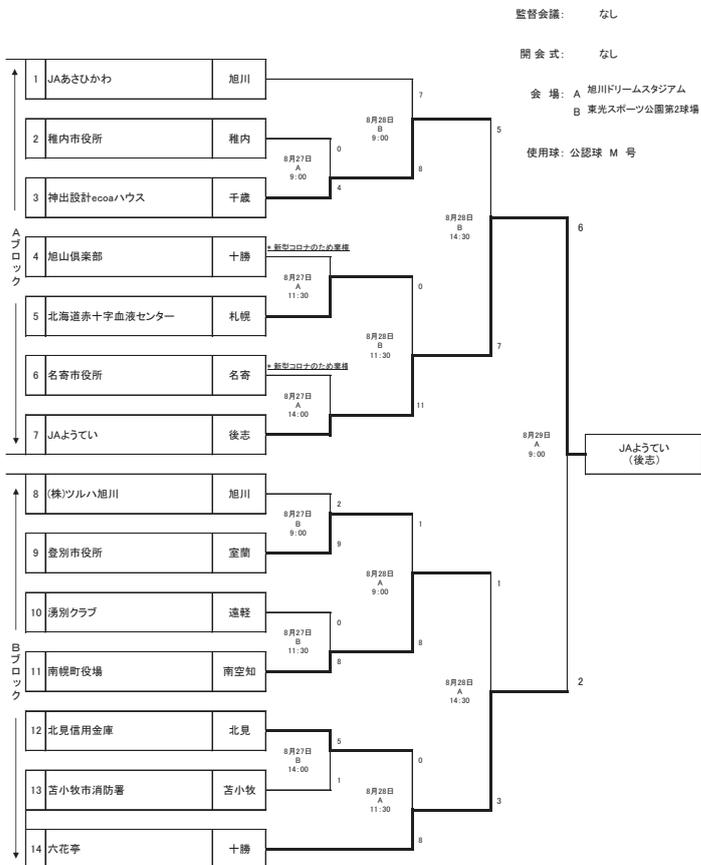
れました。おめでとうございます。

十一月十一日から開催された「水戸市長旗第三十回東日本軟式野球選手権大会」でもご活躍されました。

また、今大会は北海道のAクラスのトップチームが出場される大会であり、担当される大会役員や審判員の力量が試される大会でもあります。

旭川支部の役員や審判員は元より、交流審判員で派遣されます道北五支部の審判員の皆様も北海道知事

北海道知事杯第22回北海道軟式野球選抜選手権大会



杯に携わることや、審判をする事が審判技術向上の場と捉えていただいており、北海道知事杯で審判員としてジャッジ出来る事が一番のステータスと捉えていただいております。

今大会を過去十数年間連続で旭川支部が主管させていただき、大会運営や審判技術向上の場を与えていただきました。北海道軟式野球連盟様に深く感謝を申し上げます。

二〇二四年からは、道内の六ブ

ロックが持ち回りで大会を主管されますので、大会運営や審判技術向上の場として捉えて共に努力いたしましょう。

(旭川支部 副理事長 高井三雄)

第六回全日本シニア軟式野球南・北海道大会 優勝 ゴールドスターズ（札幌支部）

第六回全日本シニア軟式野球南・北海道大会が、九月十日、江別市野幌運動公園軟式野球場で道央、道南の各ブロックから代表三チームが参加し、全国出場を目指して熱戦を展開しました。

（札幌支部 藤山眞一）

今大会は「リーグ戦」方式で行われました。道央ブロック代表の「ゴールドスターズ」（札幌支部）が第一試合を大勝で勝利し、第二試合でも勢いそのままに、接戦を制し全国大会への切符を手中に収めました。

大会期間中、試合運営に関わった役員・審判団など多くの方々に協力

第6回全日本シニア軟式野球 南・北海道大会

監督会議：9月10日（土）午前8時20分
開会式：なし
雨天の場合は、翌日同会場にて実施
会場：野幌総合運動公園軟式野球場
使用球：公認球M号
2022年規則書、競技者必携による。

第1試合	9時00分	ゴールドスターズ（札幌支部）	12	対	蘭越クラブ（後志支部）	5
第2試合	11時30分	札幌迷球会フィフティオーバース（札幌支部）	5	対	ゴールドスターズ（札幌支部）	6
第3試合	14時00分	蘭越クラブ（後志支部）	0	対	札幌迷球会フィフティオーバース（札幌支部）	7
優勝	ゴールドスターズ（札幌支部）					
準優勝	札幌迷球会フィフティオーバース（札幌支部）					
第3位	蘭越クラブ（後志支部）					

3チームの勝敗が並んだ場合は、次の順で順位を決定する。

- ① 得失点の差の大きいチームを上位
- ② 得失点の差が同じ場合は、総得点の多いチームを上位
- ③ 総得点と同じ場合は、総失点の少ないチームを上位
- ④ 抽選



第6回全日本シニア軟式野球大会北・北海道大会

監督会議：開催しません
開会式：開催しません

会場：A 稚内市大沼球場
B 稚内市大沼第2球場

Aブロック	1	KB倶楽部	北見	9/10 A 10:00	1	サージ網走
	2	十勝バンビーン	十勝	9/11 A 9:00	4	
	3	中標津LEGEND, CLUB	中標津	9/10 A 12:00	2	
	4	旭川クラブ	旭川	9/11 A 13:30	6	
Bブロック	5	サージ網走	網走	9/10 B 10:00	5	サージ網走
	6	釧路チームN	釧路	9/11 A 11:00	1	
	7	チームねむろ	根室	9/10 B 12:00	8	
	8	DAKUTEN	稚内		10	

（稚内支部
薄田 嘉継）
終えることができ、厚く感謝申し上げます。

第六回全日本シニア軟式野球大会北・北海道大会は、九月十日から九月十一日までの期間、最北の街・国境の街である稚内市大沼球場を主会場として、北・北海道各支部を勝ち抜いた精鋭八チームが熱戦を繰り広げました。

また、この大会は、当支部では初めてで、新型コロナウイルス禍での開催にも心配の声もありましたが、感染防止対策を徹底し大会運営に臨みました。

五十歳以上の選手により構成され

たこの大会は、まさに生涯スポーツを体現され、決勝戦まで見応えのある試合が続きました。

大会は、「十勝バンビーン」（十勝支部）、「旭川クラブ」（旭川支部）、「サージ網走」（網走支部）、地元代表の「DAKUTEN」（稚内支部）がベスト4に勝ち進み、決勝は、「旭川クラブ」と「サージ網走」の対戦となり、「サージ網走」が制しました。

大会期間中は、天候にも恵まれ、道連、道北ブロックをはじめ大会関係者に多大なご支援とご協力をいただき、無事、全日程を終えることができ、厚く感謝申し上げます。

第六回全日本シニア軟式野球北・北海道大会 優勝 サージ網走（網走支部）

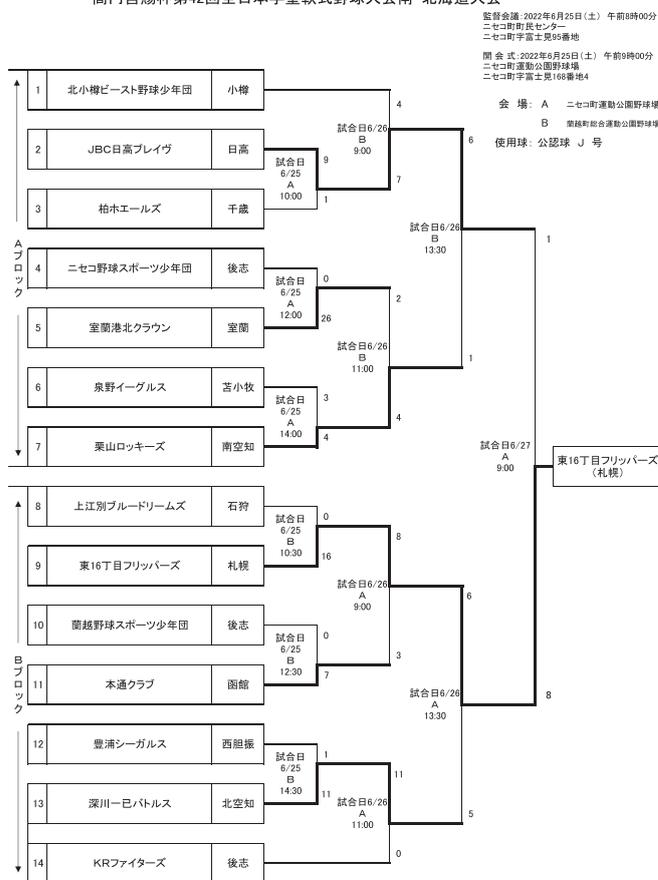
高円宮賜杯第四十二回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント南・北海道予選大会 優勝「東16丁目フリッパーズ」(札幌支部)



高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会
南北予選大会は、後志支部が
主管となり今年から三年間、開催さ
れることとなりました。

今年はニセコ町運動公園野球場を
メイン会場に、支部予選を勝ち抜
いた全十二チームと開催地推薦の
二チームの合計十四チーム、総勢
二三五名の子どもたちが集結し南北
海道の頂点を目指しました。

高円宮賜杯第42回全日本学童軟式野球大会南・北海道大会



大会前日はあいにくの雨でしたが、関係者は大会の成功に向けた準備を着実に、当日を迎えました。ここ数年新型コロナウイルスの影響により思うような活動ができていない悲しい状況が続いておりませんが、昨年から少しずつ活動が再開でき、今年大会では開会式を行い、選手を

はじめ元気よく行進をする選手たちの姿に、チーム関係者、保護者、大会関係者の喜びもひとしおでした。片山名誉大会長(ニセコ町長)の始球式により大会は幕を開け、期間中は好天にも恵まれ、元気ハツラツとしたプレーに観客席からも熱い声援が送られました。決勝戦は一回戦から順当に勝ち上がってきた三年連続出場の「JBC日高ブレイヴ」(日高支部)と一回戦を五回コールドゲームで快勝し準決勝を一点差の接戦で制した四年連

続出場の「東16丁目フリッパーズ」(札幌支部)の戦いとなりました。試合は、一回表に「JBC日高ブレイヴ」が一点を先制したものの、その裏、「東16丁目フリッパーズ」が同点に追いつき、三回裏に一点を追加し、一点を争う決勝戦にふさわしい緊迫したゲーム展開のまま四回を迎えることになりました。四回の表を○点に抑えた「東16丁目フリッパーズ」はその裏、先頭打者が出塁し、続く打者もヒットや相手のミスで得点を重ね、最後は五番打者のホームランで5回コールドゲームとし、去年の雪辱を果たし見事二年ぶりの南北海道の頂点に立ちました。

今大会を振り返ると、学童部のルール改訂により六イニング制と時間制限一時間三十分が新たに導入され、一日七十球の投球数制限などもあり、監督・コーチの采配がこれまで以上に重要となるでしょう。特に一日二試合での投手起用が勝ち上がるための最大の鍵になると感じました。

(後志支部 事務局 福家朋裕)

高円宮賜杯第四十二回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント北・北海道予選大会 優勝 旭陵野球少年団（旭川支部）

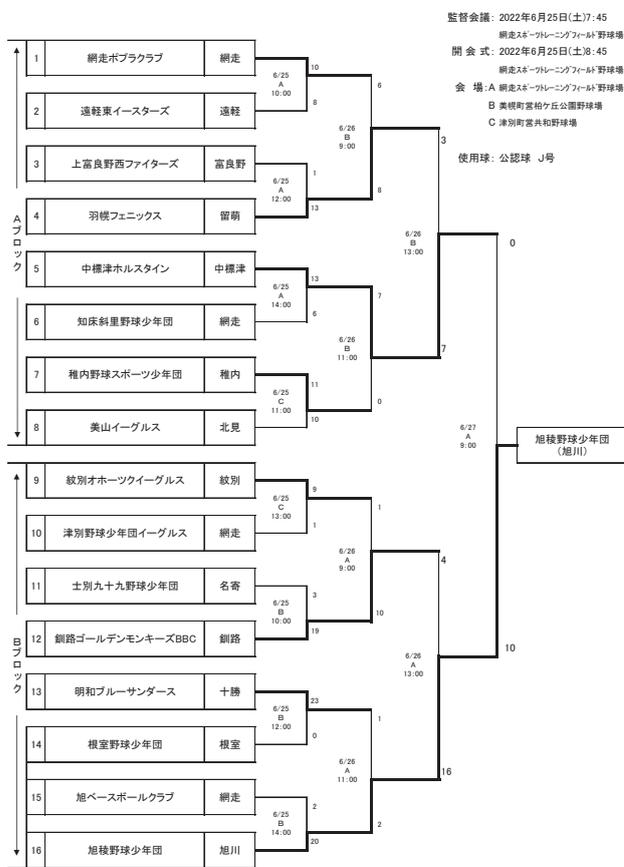
高円宮賜杯 第四十二回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメントは六月二十五日から二十七日まで、網走支部を主管として網走スポーツトレーニングフィールド野球場、美幌町営柏ヶ丘公園野球場、津別町営共和野球場の三会場で開催されました。

試合は六回又は一時間三十分と短縮されたにも関わらず、十五試合中八試合がコールドゲームとなった事は、何らかのコロナ過の影響があったように思われます。

美幌町営柏ヶ丘公園球場で行われた準決勝の「中標津ホルスタイン」対「中標津支部」対「羽幌フェニックス」



高円宮賜杯 第42回全国学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント 北海道大会



（留萌支部）は、「羽幌フェニックス」が前半はリードしていましたが「中標津ホルスタイン」が六回表に一挙六点を奪い逆転しそのまま逃げ切りました。

網走スポーツトレーニングフィールド野球場で行われた準決勝の「釧路ゴールデンモンキーズBBC」(釧路支部)対「旭陵野球少年団」(旭川支部)

川支部)は、「旭陵野球少年団」が前田・瀧口両投手の力投と、安加賀選手のホームランで前評判通りの強さを発揮し、決勝戦に駒を進めました。

決勝は「中標津ホルスタイン」と「旭陵野球少年団」で行われ、「旭陵野球少年団」は瀧口・安加賀・前田の継投で「中標津ホルスタイン」を完封。大会二連覇として全国大会の切符を手に入れました。

特に準々決勝の「旭陵野球少年団」と「明和ブルーサンダース」(十勝支部)で、両チームの好守もあり五

回まで一対一で進んでいたが、最終回の六回に「旭陵野球少年団」は一点を取り、その裏を無得点に抑え勝利したのが、印象に深い試合でした。

コロナ過の中、様々な制約があるなか協力いただいた指導者・選手・保護者そして大会役員・審判・チーム手伝いの方々の協力に感謝いたします。

本当にありがとうございました。

来年また、網走(網走・斜里・小清水)で逢いましょう。

(網走支部 寺西 栄二)



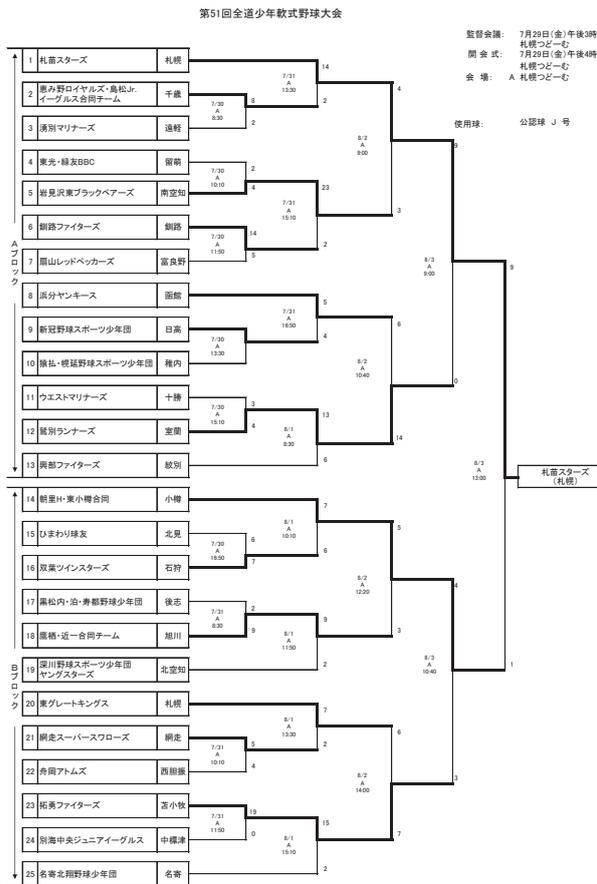
第五十一回全道少年軟式野球大会 優勝「札幌スターズ」(札幌支部)

第五十一回全道少年軟式野球大会が、七月三十日から八月三日まで全天候型球場・札幌コミュニケーション(つどいむ)に全道の二十四支部を勝ち抜いた代表二十五チームが集い、北海道の頂点を目指して五日間に渡って熱戦を展開しました。

開会式は、コロナ感染防止に配慮し行進を中止し、監督と主将が椅子に着席して行われました。

決勝は「札幌スターズ」(札幌支部)と、「朝里巨・東小樽合同」(小樽支部)が対戦。初回、先制した「札幌スターズ」が点を積み重ね、大差で優勝を飾りました。

今年もコロナ禍での大会となり、各チーム、大会関係者の安全・安心を図るため「健康チェックシート」の提出、マスクの着用、ベンチ内の消毒、密集・密接の回避など感染予



防対策を行いました。

大会期間中、試合運営に関わった役員・審判団、そして加盟チームからの補助員など多くの方々に協力いただいたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

(札幌支部 藤山真一)

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

第十四回全日本少年春季軟式野球北海道予選会兼 第十九回北海道中学校軟式野球選抜選手権大会 優勝 北見市立光西中学校（北見支部）

中学野球秋の集大成「全日本春季少年」。関係者の中で「雨の：」と囁かれたこの大会も第一回から運営してきた当支部にとって、さびしくも今回が最後となりました。

ご承知の通り、今や全国予選として十四回、そしてそれ以前に道の独自大会として五回の実績があります。が、実は当支部が前身大会として道央各支部の新人大会優勝者を招いた「滝川会長杯」として開催されていたことはあまり知られていません。

そして、そのローカル大会を全道大会に結びつけたのが、当支部の元顧問森憲明氏と元理事長江川正氏（ともに故人）の御二方でした。

お陰で我々の審判技術向上の機会が増え、地元中学野球の発展につながったのは言うまでもありません。

今後、この大会は新たな運営方法が検討されていると聞いておりますが、これまで大会を支えていただいたすべての皆様に感謝を申し上げるとともに、支部一同この大会の

益々のご発展をお祈り申し上げます。

最後に大会結果ですが、決勝戦は「TTBC」（札幌支部）と「北見市立光西中学校」（北見支部）が対戦し、大接戦の末、七対六の一点差で「北見市立光西中学校」が優勝しました。

（第14回全日本少年春季軟式野球大会兼第19回北海道中学校軟式野球選抜選手権大会）



（北空知支部リポーター 渡辺 禎）





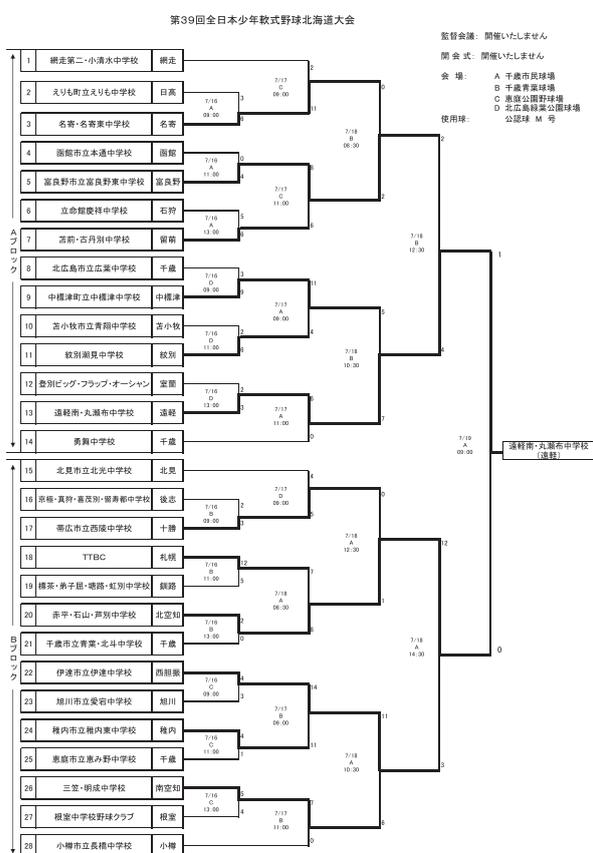
雨降る中のグラウンド整備

七月十六日から十九日、二八チームが参加して千歳支部の四会場で行われた本大会は、「遠軽南・丸瀬布中学校」（遠軽支部）の合同チームが優勝しました。大会前から期間中の雨が予想されており天気心配でしたが、大会初日は無事終えました。二日目の十七日は予想通りの雨の中、第二試合までは終えましたが、第三試合に入ると雨は更に強まりスタッフ総出でグラウンド整備を行うも

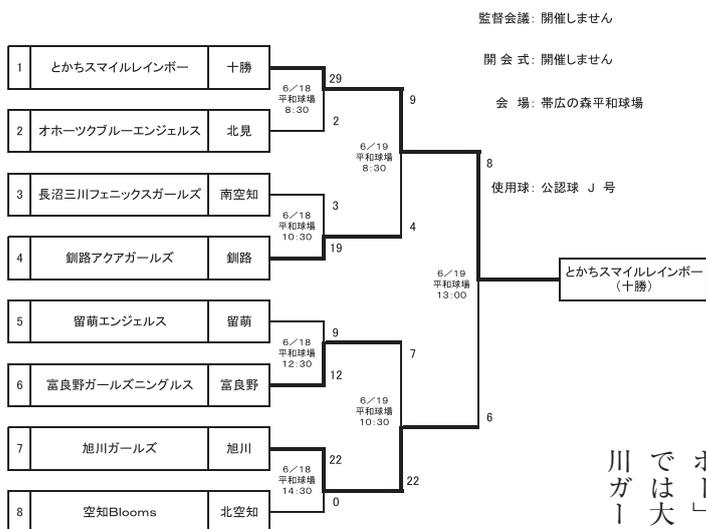
第三十九回全日本少年軟式野球北海道大会 雨中の熱戦、二年連続で合同チームが制す！ 優勝 遠軽南・丸瀬布中学校（遠軽支部）

試合続行困難と回の途中で打ち切り「特別継続試合」としました。翌十八日は好天に恵まれ千歳市の二会場において「特別継続試合」五試合と準決勝を行いました。決勝戦は翌日が平日である点を考慮するも決勝進出両チーム監督の意向により十九日に行い遠軽支部代表「遠軽南・丸瀬布中学校」が晴れの優勝、準優勝

の「赤平・石山・芦別中学校」（北空知支部）は、水戸市長旗大会代表の座を得ました。
（千歳支部リポーター 清水為一）



NPBガールズトーナメント 2022北海道予選会



ガールズ優勝 とかちスマイルレインボー

伏古別公園野球場で行われた全日本中学女子では、昨年の覇者「シエールズジュニア」(札幌支部)が初戦から卒のない攻撃を見せ順当に勝ち上がり、決勝戦でも落ち着いた戦いを見せ、見事に大会四連覇。王者の貫禄で優勝旗を手にし

季節は真夏を思わせるような汗ばむ陽気の中、六月十八日・十九日の二日間で表記の二大会が同時開催されました。特にNPBガールズトーナメントでは過去最多の八チームが帯広の森平和球場に集結し激戦を繰

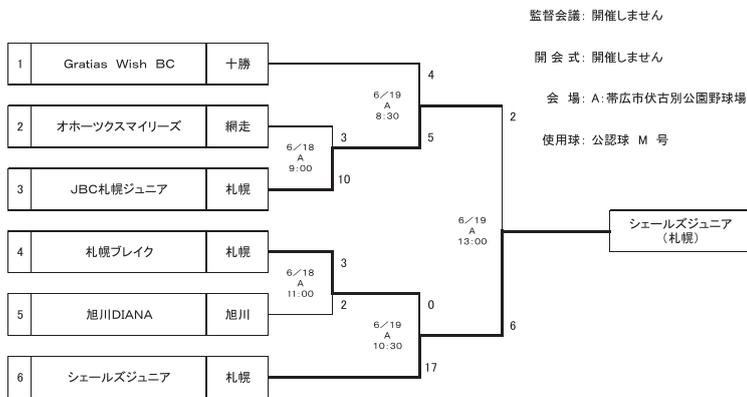
り広げました。NPBガールズトーナメント決勝は「とかちスマイルレインボー」(十勝支部)と「旭川ガールズ」(旭川支部)の戦いとなりました。先制を許した「とかちスマイルレインボー」はその後逆転に成功、終盤までは大量リードとなりましたが、「旭川ガールズ」の猛追を受け、ぎりぎり

「NPBガールズトーナメント 二〇二二」
「第七回全日本中学女子軟式野球大会」北海道予選会
ガールズトーナメント優勝 とかちスマイルレインボー (十勝支部)
全日本中学女子優勝 シエールズジュニア (札幌支部)



全日本中学女子優勝 シエールズジュニア

第7回全日本中学女子軟式野球大会 北海道予選会



ました。近年、コロナ感染症対策で様々な規制がある中、無事大会を終了することができたことに、選手をはじめチーム関係者の皆様にお礼を申し上げます。また、事務局が慣れないため相談事が多く、大会委員長の助言指導がとても心強かったことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

(十勝支部 加藤和博)

**第四十三回 スタルヒン杯争奪全道スポーツ少年団軟式野球交流大会兼
第三十七回 北海道スポーツ少年団軟式野球大会（第四十四回 全国ス
ポーツ少年団軟式野球交流大会北海道予選会）**
優勝・東川大雪スポーツ少年団

第四十三回 スタルヒン杯争奪全道スポーツ少年団軟式野球交流大会兼第三十七回 北海道スポーツ少年団軟式野球大会（第四十四回 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会北海道予選会）が七月十六日から十八日まで旭川支部主管で旭川ドリームスタジアム・東光スポーツ公園第二球場で開催されました。

今大会は全道各地の予選を勝ち上がった十六チームが参加、コロナ過の大会開催にも関わらず棄権するチームが無かったのはチームでの感染予防を徹底された証と称賛されます。

大会初日は天候もよく選手が一生懸命プレーする姿に感動を与えていただきましたが、大会二日目は悪天候の中選手、審判員もずぶ濡れになりながらの試合となりました。

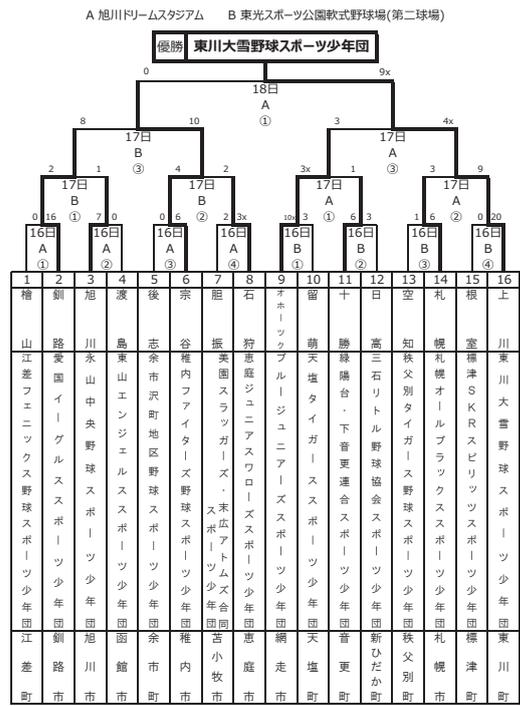
特に「愛国イーグルス」（釧路支部）対「稚内ファイターズ少年団」（稚内支部）の試合は手に汗握る攻防戦でタイブレークとなり、「稚内ファ

イターズ少年団」が十対八で勝利しました。両チームの選手が泥だらけになりながらも懸命にボールを追う姿は見ている全ての人に感動を与えてくれた素晴らしい試合でした。又、選手同様に審判員クルーへも感謝の気持ちでいっぱいです。

決勝は「稚内ファイターズ少年団」対「東川大雪スポーツ少年団」（旭川支部）の戦いとなりました。九対〇と惜しくも負けてしまった「稚内ファイターズ」の選手も最後まであきらめずプレーしていました。勝った「東川大雪スポーツ少年団」は選手、指導者がまとまりのあるチームで多彩なゲーム展開を駆使しての勝利となりました。最後まで手に汗握る決勝戦となりました。

今大会も昨年同様、コロナ過での開催となり感染対策を徹底しての運びとなりましたが当連盟にご協力いただきました参加チームの選手、指導者、保護者の方々、大会役員の皆

様方にはご協力いただき感謝申し上げます。来年の大会はコロナが収束し子供たちが伸び伸びとプレー出来ることを祈りたいと思います
（旭川支部 村田公則）



支部トピックス

旭川支部

少年団スポーツ検診

去る十一月二十九・三十日の両日、上川郡鷹栖町の北野住民センターにおきまして、少年少女を対象としたスポーツ検診が実施されました。

今年の受診者は約三五〇名で、指導者や父母らに引率された子どもたちは、真剣な眼差しで担当したドクターや理学療法士の話しに親御さんと一緒に聴き入っていました。

今年は二日間で四一七名の受診の申込みがありました。旭川地区のコロナの陽性者が増加傾向にあり、小学校での学級閉鎖が相次ぎ、当日のキャンセルが出ております。その中で三名の子どもに肘の異常をエコーで発見して、医療機関の受診を勧めたところです。

また、全体的に股関節の可動域など、柔軟性に低い評価が現れていて、ケガの防止からもストレッチ体操の重要性があらためて指摘がされました。

なお、道連から鎌田副理事長、赤田育成部長の視察があり、今後全道域において、この「スポーツ検診」の拡がりを検討されるようで、子どもたちのスポーツ障害の防止が期待されます。

(旭川支部レポーター 日向 透)



旭川支部

アナウンス講習会開催

座学 令和四年九月十七日(土)

講師 加賀紀子先生

1. アナウンサーの業務内容
2. アナウンサーの留意事項
3. 背番号、打順、回や塁、守備などのアクセント
4. 発声練習
5. ビデオで試合のアナウンスの確認

実地 令和四年十月一日(土)・二日(日)五支部チャンピオン大会
講師 加賀紀子先生
実際の試合でのアナウンス指導
参加者の殆どがアナウンスの指導を受けた事がなく、大変勉強になりました。
単語の語尾やアクセント、観客が聞きやすい発声などのアドバイスを頂きました。



9月17日(土曜) 座学風景



10月1・2日(土・日)
道北5支部チャンピオン大会実技講習会風景



各部近況報告

いちご二会とちぎ国体第七十七回国 民体育大会軟式野球競技会同行報告

北海道軟式野球連盟 育成部

部長 赤田 敏美

牧 由

日時 二〇二二年十月七日(金)

十二時五十七分～十五時二十六分

(二時間二十九分)

場所 宇都宮清原球場

宇都宮市清原工業団地十四

前日の雨が続く中、第一試合が三時間三十分を大幅に延びる状況で第二試合は予定を大きく遅れて開始しました。両チーム降り頻る雨の中、三回までは、「六花亭」が二本のヒットなど打って有利に進めてきました。四回の裏、石川県代表が一死のあと「六花亭」のレフトがやや後ろに下がったあたりで一端グロープに入れたあと落球、結局二塁打となりました。その後連打されて二点献上、さらにデッドボール、ヒットが続き、加点され、ファールボールを続けて押し出しなどで加点されたあと、よう

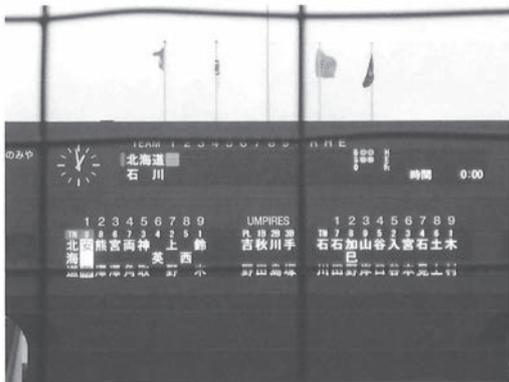
やくピッチャーが鈴木から信田に交代、さらにファールボール二つ出したあとに、満塁ホームランを打たれ、この一回一挙十一点を献上。その後いくつかのチャンスがおとずれたが、二点を返すのがやっとで、残念ながら七回コールド試合となりました。強く、弱く降る雨、気温十三度の中、選手は北海道でもなかなか体験しない状態で試合をするのは、かなりの苦勞があったと思いますが、条件は相手チームも同じ、一つのエラーから投手も調子を狂わし、予想もしない大差となってしまいました。お疲れ様と拍手を送りたいと思いますが、結局、「六花亭」六安打、「コマ

ニー」(石川県代表)が八安打とあまり変わらない安打数とその試合が点数以上に接戦だったと感じています。来年雪辱をおねがいます。

会場の設備等は素晴らしい環境ですが、あまりにも熾烈な雨環境という回戦を戦うチームが同じ宿舎というのは疑問でした。



スタッフ全員で記念撮影



チーム名(都道府県名)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
六花亭(北海道)	0	0	0	0	1	0	1			2
コマニー株式会社(石川県)	0	0	0	11	0	0	×			11

編集後記

十月二十日に行われたプロ野球ドラフト会議で、今年は北海道から現役高校生が三名、また、道内ゆかりの選手が多数指名され歓喜に沸いたところでありまし、最近プロ野球でも道内出身選手の活躍が多く見られるようになってきました。

これについては諸説ありますが、一つは昭和の時代と比べて学童野球を始めとして、練習内容とかトレーニング方法や指導の方法が変わり、北海道の野球選手のレベルが一気に向上したということ。

昔は「雪国のハンデ」という言葉をよく聞きましたが、今はドーム型の土間体育館などで野球の練習や試合が行われているそうです。

本州の温暖な地域では、一年中土の上で野球をすることが出来るのですから、そういう意味では「雪国のハンデ」はなくなってきたのかなと思います。

しかし、逆を言うと子供たちは

休む暇もなく年中野球をやっている体が疲れ、肘・肩を故障する確率が高くなり如いては野球ロスになって、野球を続けられなくなるといった恐れが出てくるのではないかと感じる自分がいます。

そのような中で、皆さんもご存じのことと思いますが、全軟連では子供たちのケガや故障を減らすといった健康管理の一環として、球数や試合時間、試合回数などの制限を設けるようになってきました。

これは大変良いことだと思っておりますが、道連が主催でない一部のローカル大会等で、これらのことを無視して開催してるといった声も聞こえてきます。

確かに、制限をいちいち守って大会を開催するというのは面倒なことかもしれないが、一人でも多くの子供たちに一年でも長く野球を続けていってもらうためには是非とも浸透させていかなければなりません。それも私たちの大事な任務ではないでしょうか。

(総務部理事 新林裕幸)



2023年度 北海道大会・全国大会開催日程(案)

大会名	主管支部	開催地	会期	締切	抽選	全国大会			
						開催地	会期	締切	抽選
天皇賜杯 第78回全日本軟式野球大会	南大会	南空知	岩見沢市 栗山町	7/14(金) ~7/17(月)	7/4 (火)	7/5 (水)	香川県 丸亀市、高松市、坂出市 観音寺市、さぬき市	8/9 (水)	8/16 (水)
	北大会	紋別	紋別市 滝上町	7/14(金) ~7/17(月)	7/4 (火)	7/5 (水)			
高松宮賜杯 第67回全日本軟式野球大会(1・2部)	南大会	苫小牧	苫小牧市 新ひだか町	7/8(土) ~7/10(月)	6/27 (火)	6/28 (水)	1部 岩手県 9/30(土) ~10/2(月)	8/29 (火)	8/30 (水)
	北大会	釧路	釧路市 厚岸町	7/7(金) ~7/10(月)	6/27 (火)	6/28 (水)	2部 大阪府 9/9(土) ~9/11(月)		
第78回国民体育大会 軟式野球競技北海道大会		函館	函館市 北斗市 木古内町 知内町	7/28(金) ~7/31(月)	7/18 (火)	7/19 (水)	鹿児島県 10/13(金) ~10/16(月)	9/7 (木)	9/8 (金)
							鹿児島市、日置市、薩摩川内市、出水市		
日本スポーツマスターズ2023 軟式野球競技北海道大会	南大会	室蘭	室蘭市	7/22(土) ~7/24(月)	7/11 (火)	7/12 (水)	福井県 9/15(金) ~9/18(月)	未定	未定
	北大会	根室	根室市	7/21(金) ~7/24(月)	7/11 (火)	7/12 (水)			
第46回東日本軟式野球 北海道大会(1・2部)	南大会	北空知	滝川市 深川市	9/22(金) ~9/25(月)	9/12 (火)	9/13 (水)	2024年度1部 (第46回大会)	未定	未定
	北大会	中標津	中標津町 別海町 標津町 羅臼町	9/1(金) ~9/4(月)	8/22 (火)	8/23 (水)	2024年度2部 (第46回大会)		
北海道知事杯 第23回北海道軟式野球選抜 選手権大会		旭川	旭川市	8/26(土) ~8/28(月)	8/15 (火)	8/16 (水)	茨城県 11/2(木) ~11/6(月)	9/28 (木)	10/2 (月)
							水戸市長旗第31回東日本軟式野球選手権大会		
高円宮賜杯 第43回全日本学童 軟式野球大会	南大会	後志	共和町 仁木町	6/24(土) ~6/26(月)	6/13 (火)	6/14 (水)	東京都 8/5(土) ~8/11(金)	7/14 (金)	7/19 (水)
	北大会	網走	網走市 斜里町 小清水町	6/24(土) ~6/26(月)	6/13 (火)	6/14 (水)	徳島県 阿波おどりカップ 全国学童軟式野球大会 2023	未定	未定
第52回全道少年軟式野球大会		札幌	札幌市	7/28(金) ~8/2(水)	7/18 (火)	7/19 (水)	和歌山県 第28回高野山 旗全国学童軟式野球大会	未定	未定
第40回全日本少年軟式野球 北海道大会		十勝	帯広市 芽室町	7/15(土) ~7/17(月)	7/4 (火)	7/5 (水)	神奈川県 横浜市 8/14(月) ~8/17(木)	7/14 (金)	7/21 (金)
							茨城県 水戸市長旗第13 回東日本少年大会	未定	未定
第15回全日本少年春季 軟式野球北海道予選会・ 第20回北海道中学校軟式 野球選抜選手権大会	南大会	石狩	石狩市 江別市	9/16(土) ~9/18(月)	9/5 (火)	9/6 (水)	2024年度 (第15回大会)	未定	未定
	北大会	旭川	旭川市	9/16(土) ~9/18(月)	9/5 (火)	9/6 (水)			
NPBガールズトーナメント2023		十勝	帯広市	6/17(土) ~6/18(日)	6/6 (火)	6/7 (水)	石川県 7/25(火) ~7/31(月)	未定	未定
第8回全日本中学女子軟式野球大会 北海道予選会		十勝	帯広市	6/17(土) ~6/18(日)	6/6 (火)	6/7 (水)	京都府 8/17(木) ~8/23(水)	7/14 (金)	7/18 (火)
第7回全日本シニア 軟式野球大会	南大会	札幌	江別市	9/9(土)	8/29 (火)	8/30 (水)	2024年度 (第7回大会)	未定	未定
	北大会	釧路	釧路市	9/9(土) ~9/10(日)	8/29 (火)	8/30 (水)			
第45回東日本軟式野球全国大会 <1部>				6/3(土)~6/5(月)		東京都			
〔出場チーム〕 ダンディーズ(日高)				OKOPPEベースボールクラブ(紋別)					
第45回東日本軟式野球全国大会 <2部>				5/27(土)~5/29(月)		神奈川県			
〔出場チーム〕 夕張市役所野球部(南空知) 年中野球(十勝)									
文部科学大臣杯第14回全日本少年春季軟式野球大会				3/21(火)~3/26(日)		静岡県			
〔出場チーム〕 北見市立光西中学校(北見) TTBC(札幌)									
第6回全日本シニア軟式野球大会				5/27(土)~5/30(火)		埼玉県			
〔出場チーム〕 ゴールドスターズ(札幌) サージ網走(網走)									
第44回スタルピン杯(全道スポーツ少年団交流大会)				7/15(土)~7/17(月)		旭川市			